

琉球産ハエ類について*

長崎大学風土病研究所衛生動物学研究室 (主任: 大森南三郎教授)

末 永 敏
すえ なが おさむ

On the Flies of Medical Importance in the Ryukyus. OSAMU SUENAGA, Department of Medical Zoology, Research Institute of Endemics, Nagasaki University (Director: Prof. N. OMORI)

まえがき

加納博士(1957)によれば、琉球の昆虫類についての調査は古くは第2次大戦前に素木、江崎両博士を始めかなり多数の昆虫専門家によって、また戦後は素木、H. J. Magens, G. E. Bohart 博士、安仁屋氏等によって行なわれており、戦後の調査の中には衛生害虫としてのハエを対照としたものも含まれている由であるが、以上の諸調査の結果についてはまだ報告されていないようである。その後、H. J. Magens 等(1956)は石垣島を主体に西表、与那国、波照間、黒島、小浜、宮古、沖繩の各島で、主に捕虫網によるハエの採集を行ない、その結果5科16属35種のハエ類が採集できたことを報告している。この報告は琉球のハエ類についてのまとまったものとして唯一のものと思われる。

著者は1961年10月から11月にかけて長崎大学風土病調査団の1員として琉球へわたり、フィラリア調査の傍ハエ類の採集を行ない、若干の知見を得たので、ここにその結果について報告する。

この報告を出すに当り、調査の機会を与えられ、且つ、本稿の校閲を賜った恩師大森南三郎教授に厚くお礼を申し上げる。また、沖繩本島でのハエの採集に協力をうけた琉球大学学生与那原孫伝君に感謝する。

調査場所及び方法

採集は主に沖繩本島及び宮古島で、魚のアラを誘引源とした布製のトラップ及び捕虫網を用いて行なわれた。トラップは人家附近の木蔭に吊り下げて使用し、捕虫網による採集は主に人家附近、畜舎、道路側等で機会ある毎に行なった。

調査成績及び考察

10月15日から11月6日までの23日間に採集されたハエの種類と数は第1表に示すように4科10属20種で、この中チャパネヒメクロバエ(*O. hyra chalcogaster*)、フタオクロバエ(*Triceratopyga calliphoroides*)、ヒロズキンバエ(*Lucilia sericata*)の3種は何れも日本では普通に採集されるが琉球からは今回始めて記録されるものである。また、ハラアカイエバエ(*Musca ventrosa*)、フタスジイエバエ(*M. sorbens*)、ホホジロオビキンバエ(*Chrysomya rufifacies*)、ツノアカニクバエ(*Sarcophaga ruficornis*)等は明らかに東洋区系の種類で、ハラアカイエバエとツノアカニクバエは日本では全く採集されていないし、フタスジイエバエは奄美大島と宮崎で、ホホジロオビキンバエは奄美大島と東京で少数採集されているにすぎない。ところが琉球ではこれらの4種は何れも普通に採集されるのである。

表示した20種のハエ類の中で、人畜の衛生上特に重要と思われる種類はイエバエ(*Musca domestica vicina*)、ハラアカイエバエ、フタスジイエバエ及びオビキンバエ(*Chrysomya megacephala*)の4種である。イエバエは畜舎の敷きわらから大量に発生しており、人畜にうるさくつきまとうことは日本におけると同様である。ハラアカイエバエは畜糞から、またフタスジイエバエは人畜の野糞から発生し、これらの2種も亦人畜につきまとい、しばしば人家内へも侵入して人間の食物にとまるので、イエバエと共に皮膚病や伝染性眼疾、消化器伝染病などの機械的伝播者となっている。琉球、特に八重山群島で馬のハプロネーマ症の媒介をしているのも亦これらイエバエ科のハエ類で、その被害が甚大であることが報告されている。

*長崎大学風土病研究所業績 第407号

長崎大学医学部医動物学教室業績 第113号

Tael 1. Species and number of flies collected by the fish baited cage trap and hand net in the Ryukyus during from October, 15 to November, 6, 1961

Species	No. Collection	Island		Miyako		Ishigaki	Total
		Method		Trapping	Netting	Trapping	
		Trapping	Netting	Trapping	Netting	Trapping	
		14	11	9	3	1	
* <i>Ophyra chalcogaster</i>		5	6				11
<i>Anthomyia illocata</i>			3				3
** <i>Musca domestica vicina</i>			310		175		485
** <i>Musca ventrosa</i>			12	9			21
** <i>Musca sorbens</i>		17	5	24	3		49
<i>Musca convexifrons</i>		1		5	1		7
<i>Stomoxys calcitrans</i>			11		39		50
<i>Orthellia</i> sp.			3				3
* <i>Triceratopyga calliphoroides</i>		1					1
* <i>Lucilia sericata</i>			2				2
<i>Lucilia cuprina</i>			2			1	3
<i>Hemipyrellia ligurriens</i>		3	2	2			7
** <i>Chrysomya megacephala</i>		209	108	102	2		421
<i>Chrysomya rufifacies</i>		25	12	51	2		90
<i>Sarcophaga albiceps</i>		1		7			8
<i>Sarcophaga peregrina</i>		28	9	13			50
<i>Sarcophaga misera</i>		4	3	25			32
<i>Sarcophaga caudagalli</i>		1	10				11
<i>Sarcophaga josephi</i>			5				5
<i>Sarcophaga ruficornis</i>			3				3
Total		295	506	238	222	1	1262

* New to the Ryukyus

** Medically important species in the Ryukyus

オビキンバエは日本では京都以南に分布している種類で、長崎地方では10月頃多数にみられるが、琉球においては略々1年を通じてその数が著しく多く、本種は主に便池から発生し、しばしば人間の食物にもとまるので消化器伝染病の機械的伝播者として重要であると思われる。

今回の調査は短期間に断片的に行なわれたので採集

されたハエの種類、数共に少なく、この調査結果が琉球のハエ族相をそのまま反映しているとは思われないが、3種の新記録種を追加し得たことと、4種の東洋区系のハエがごく普通に採集できることを知ったこととはこの地方のハエ族相の一端を示すものとして注目される。

ま と め

1961年10月から11月にかけて、琉球の主として沖縄本島と宮古島で、魚のアラを誘引源とした布製のトラップと、捕虫網によるハエの採集を行なった。23日間に採集されたハエの種類と数は4科10属20種で、この中、チャバネヒメクロバエ、フタオクロバエ、ヒロズキンバエの3種は琉球での新記録種であり、ハラアカイエバエ、フタスジイエバエ、ホホジロオビキンバエ、ツノアカニクバエの4種は明らかに東洋区系の種

類で、この4種は何れも琉球では普通に採集できる。人畜の衛生上特に重要であると思われるものはイエバエ、ハラアカイエバエ、フタスジイエバエ、オビキンバエの4種で、これらのハエは皮膚病や伝染性眼疾、消化器伝染病などの機械的の伝播者として、更に前3者は馬のハブロンマ症の媒介者として重要である。

今回の調査の結果、3種の新記録種を追加したことで、4種の東洋区系のハエがごく普通に採集できることを知ったことは琉球のハエ族相の一端を示すものとして注目される。

文 献

- 1) 加納六郎：先島群島の蠅類について（ガリ版印刷）。pp.10, 1955.
- 2) 加納六郎, 佐藤孝慈：南琉球列島（先島列島）の蠅類について（会）。衛生動物 6 (1) : 36, 1955.
- 3) Kano, R. : Notes on flies of medical importance in Japan. Part XIII. Descriptions of Sarcophagid flies collected on the Yaeyama islands, Ryukyu. Bull. Tokyo Med. Dent. Univ. 4 (4) : 287-294, 1957.
- 4) Kano, R. : Notes on flies of medical importance in Japan, Part XIV. Descriptions of five species belonging to Chrysomyinae (Calliphoridae) including one newly found species. Bull. Tokyo Med. Dent. Univ. 5 (3) : 465-474, 1958.

- 5) Magens, H. J., 加納六郎, 小林準三, 佐藤孝慈：沖縄八重山群島に於ける馬の Habronema 症に就いて。第1報 八重山地方の馬の胃虫症の中間宿主に関する知見。お茶の水医学雑誌 4 (2) : 224-232, 1956.
- 6) 宮崎武人：宮崎県地方のハエ類について（会）。第9回日本衛生動物学会南日本支部大会講演要旨：4-5, 1959.
- 7) 宮崎武人：奄美大島におけるハエ（会）。衛生動物 12 (2) : 154, 1961.
- 8) 大塚 任, 加納六郎, 大志摩毅, 小林準三, 高橋登, 佐藤孝慈, 林 滋生：琉球八重山地方のハブロンマ症の疫学について（会）。寄生虫学雑誌 5 (2) : 224, 1956.
- 9) 佐藤孝慈, 加納六郎：琉球八重山地方における馬の Habronema 症について。寄生虫学雑誌 5 (1) : 45-50, 1956.

Summary

Collections of flies were made in the Ryukyus, especially in Okinawa and Miyako islands by fish baited cage traps and hand nets during from October to November, 1961. The species and total number of flies collected in the period are shown in Table 1.

Ophyra chalcogaster, *Triceratopyga calliphoroides*, and *Lucilia sericata*, were found to be new to the Ryukyus.

Musca ventrosa, *M. sorbens*, *Chrysomya rufifacies*, and *Sarcophaga ruficornis* which are oriental in distribution, were found to be widely and rather commonly distributed in the Ryukyus.

Musca domestica vicina, *M. ventrosa*, *M. sorbens*, and *Chrysomya megacephala* seem to be the species of medical importance in the Ryukyus. The first three species are well known as the intermediate hosts of *Habronema* spp. The last species is breeding out in the privy in a tremendous number. These four species of flies are much common around houses and appear to be the dangerous mechanical transmitter of pathogenic microorganisms.